

1. 2018 年度報告

(1) 入試関連 (Waseda Vision 150 核心戦略 1 関連)

－2020 年度を見据えた各学部・研究科における入試制度改革の実施状況等－

1. 大学入学共通テストの導入に向けた検討状況

1) 大学入試センター試験利用入試 (センター＋一般方式)、一般入試 (ドイツ語・フランス語・中国語・韓国語選択)、新思考入試の3つの入試制度でセンター試験を共通テストに置き換える形での利用を検討している。

2. 英語外部試験導入に向けた検討状況

1) 2017 年度より導入した一般入試 (英語 4 技能テスト利用型) は、志願者数が右肩上がりで推移している。

2) 一般入試に代わる入試の検討状況

現在の一般入試の枠組みの変更は予定しておらず、これまで同様、国語、英語、世界史、日本史について独自に問題を作成し、実施することを検討している。

3. 入試広報の展開状況

1) 対面

オープンキャンパス、模擬講義・学部説明、進学相談会、大学院説明会 (全学・文研独自) 等を実施し、受験生に直接学院の最新情報を伝えるとともに、受験生側のニーズをヒアリングし、入試制度設計等の参考情報とした。特に、オープンキャンパスについては、2 年前まで早稲田キャンパスで実施していたが、高校生のオープンキャンパス参加の目的上位に「実際のキャンパスや施設を見ること」があがっていることもあり、2017 年度から戸山キャンパスで実施している。本年度は学部説明会を録画のみとすることで来場者の集中を防ぎ、多彩な模擬講義の実施による企画の充実と来場者の満足度向上につなげた。

(2) 教育関連 (Waseda Vision 150 核心戦略 2、3、4 関連)

－グローバルリーダー育成にむけた、各学院・学校における取り組み状況等－

1. 教員採用に関する取り組み

1) Vision 150 教員増支援枠により、大学院文学研究科「国際日本学コース(Global-J)」を担当する専任教員 1 名 (コロンビア大学大学院卒) を、文学学院初のテニユア・トラック制度にて嘱任 (9 月)

2) コロンビア大学教授 2 名を訪問教授として継続嘱任

3) UCLA 上級准教授 1 名を JA による任期付准教授として嘱任

4) 南カリフォルニア大学准教授 1 名を JA による任期付准教授として嘱任

5) コロンビア大学准教授 1 名を JA による任期付准教授とする協定の締結

6) 世界的に著名な作家 1 名を訪問教員嘱任

7) 本学院教員 1 名を、教育・研究の連携のため UCLA に派遣

8) 人事要望の可否判断の際に、文学学院全体で女性教員の比率を 3 割とすることを考慮

9) 作家・ジャーナリストなどの特殊なケースを除いては、公募を中心に教員採用をすすめてきた。

2. 学部・大学院のカリキュラム改革

1) 大学院文学研究科「国際日本学コース」(Global-J)博士後期課程の開設 (9 月)

2) 文学部中東・イスラーム研究コースの進級者受入開始

- 3) 大学院改革に向けて検討を継続（新コース開設のための手続き開始）
- 4) 2021 年度からの学部語学改革に向けた英語オンデマンド授業開発準備
- 5) 2020 年度からの初年次教育の改革に向けた検討

4. クォーター制の取り組み

- 1) 学術院としてのクォーター制運用ルールを定め、文化構想学部多元文化論系の英語学位プログラム(JCulP)と中国語中国文学コースが全面的にクォーター制を導入している。

(3) 研究関連 (Waseda Vision 150 核心戦略 7、9 関連)

－ 研究の国際展開のための戦略策定に向けた取り組み状況等 －

1. 研究推進・支援体制

- 1) 総合人文科学研究センター（以下「人文研」）の一研究部門（以下「研究部門」）である「角田柳作記念国際日本学研究所（以下「角田研」）」および同部門を母胎として展開する SGU「国際日本学拠点」の双方で、学術院としての活動との有機的な連携を確保しつつ推進・展開している。（SGU 拠点の詳細は「国際関連参照」）
- 2) 「柳井正イニシアティブ・グローバル・ヒューマニティーズ・プロジェクト」を米国 UCLA と共同で推進し、特に米国－日本間での研究者交流・学生交流、そして日本文化理解についての橋渡しのための諸施策を実施した。

2. 科研費獲得の促進

- 1) 合計 採択者 32 名となり、昨年度比で 10 名の増加となった。
- 2) 科研費獲得の促進策として、『日本学術振興会特別研究員（DC）』応募チャレンジセミナーを新たに開催した。（4月11日）

3. 研究関連シンポジウム、フォーラム等の開催

- 1) 人文研を通じた研究部門活動の支援
 - ・研究部門主催・共催の研究会・シンポジウムの開催増（主催 16 件、共催 38 件、後援 2 件）
 - ・SGU「国際日本学」拠点と連携したシンポジウム等の開催（「国際関連」参照）
- 2) 「人文研年次フォーラム」の開催（12月8・9日）
- 3) 「東アジア人文学フォーラム」（12月、中国南開大学）での研究成果発表および共同研究の推進
- 4) SGU 国際日本学拠点は既存の分野に加えて「英文学」「歴史」「演劇」「メディア」の4分野を付加し、各々の拡大分野のリーダーを決め、多方面での展開を開始した。

4. 研究領域を越えた研究連携の促進

- 1) 新任教員による研究内容自己紹介を中心に、ランチセミナーを開催した。（5月9日、7月25日）
- 2) データ科学総合研究教育センターの協力・支援による、データを活用した文理融合による研究の促進
- 3) 人文学の領域を越えたプロジェクト研究の推進

5. 研究成果（英文）発信の取り組み

- 1) 「Waseda RILAS JOURNAL」の発行（掲載論文の1割が英文）
- 2) 英語論文執筆の推進 英語論文執筆セミナーを新たに開催した。（12月）

6. 若手研究者の支援

- 1) 若手研究者には人文研の助教、助手として、また研究部門の招聘研究員として、当該組織における研究活動への参画を促した。
- 2) 人文研において「助教・助手研究支援制度」を推進した。
- 3) 若手研究者が企画する研究会等の開催
- 4) 人文研サイト内に「キャリア初期研究者支援」サイトを設置した。

(4) 国際関連 (Waseda Vision 150 核心戦略8 関連)

－派遣留学、留学受入促進に向けた環境整備への取り組み状況等－

1. 学生交流

- 1) UCLA-Waseda リサーチ・フェローシップ・プログラムによる大学院生の派遣
- 2) Waseda-UCLA リサーチ・フェローシップ・プログラムによる大学院生の受入
- 3) Waseda-UCLA トラベル・アワード・プログラムによる大学院生の受入
- 4) コロンビア大学とのダブルディグリー・プログラムによる大学院生の派遣
- 5) 「大学院生短期派遣助成制度」を活用した派遣 11 件 (11 月時点まで)
- 6) 文化構想学部の英語学位プログラム(JCuIP)の JS 学生を必修科目(Summer Session)により短期留学派遣
- 7) 文化構想学部・文学部における短期・クォーター留学による単位認定を導入

2. 研究関連国際イベントの開催

- 1) 連携校／本学において国際シンポジウム、国際ワークショップを開催
- 2) 中東・イスラーム研究に関する国際会議を開催

3. 国際共同研究

- 1) UCLA-Waseda ビジティング・プロフェッサーシップ・プログラムによる研究者の派遣
- 2) プリンストン大学教授、シカゴ大学教授らとの共同研究の成果として共編著 “Literature Among the Ruins, 1945-1955: Postwar Japanese Literary Criticism (New Studies in Modern Japan)” (Lexington Books) を刊行

4. 連携の模索

- 1) バーミンガム大学と連携した学術活動を実施
- 2) スタンフォード大学との連携強化に向けて協議を継続
- 3) ヨーロッパとの協力体制の構築・強化を目指し、イナルコ、パリ・デイドロ大学との協議を継続
- 4) 中東・イスラーム地域との短期留学プログラムの構築を模索

5. 研究関連国際イベントの開催

- 1) 本学にて坪内逍遥大賞受賞者である柴田元幸名誉教授 (東京大学) と JA 教員マイケル・エメリック准教授 (UCLA) による対談「日本文学としての翻訳文学」を主催 (7 月)
- 2) 本学にてクリスティーナ・イ准教授 (University of British Columbia) による講演会 “COLONIZING LANGUAGE-Cultural Production and Language Politics in Modern Japan and Korea” を主催 (7 月)
- 3) 本学にてアールン・ジェロー教授 (Yale University)、岩本憲児名誉教授 (本学)、マーク・ノーネス教授 (University of Michigan) 登壇による国際シンポジウム「日本戦前映画論-映画理論を再発見する」を主催 (7 月)

- 4) 本学にて二日間にわたる朝河貫一没後 70 年シンポジウム「朝河貫一とイエールー人文学の形成とその遺産」を共催(7月)
 - 5) 本学にて訪問教員の多和田葉子氏による国際ワークショップを開催 (7月)
 - 6) 早稲田大学演劇映像学会第 38 回大会第二部のシンポジウムにて JA 教員の嶋崎聡子准教授 (USC) による講演「アメリカにおける日本演劇-研究と上演の現在」が実施 (7月)
 - 7) 本学にて、訪問教員のハルオ・シラネ教授 (コロンビア大学) による講演会ならびにオープンクラスルーム “Participatory Culture and Creative Remix: From Traditional Japanese Performance Arts to Contemporary Manga” 「参加型文化」と日本 -伝統芸能から現代マンガまで- を主催 (8月)
 - 8) 本学にて、トーマス・ガウバツ助教 (Northwestern University) による講演会 “The Phantasmal Sophisticate: Mediation And Distinction In 18th -Century Edo” 「幻想としての通-洒落本に見えるメディアと身分」を主催 (9月)
 - 9) 本学にて、上原麻有子教授 (京都大学) による講演会「創造する翻訳-近代日本哲学の成長をたどって」の開催協力 (9月)
 - 10) 坪内逍遙大賞受賞者であるアーサー・ビナード氏による講演会「知らなかった、ぼくらの日本語-アメリカ生まれの詩人がこれからの列島の言葉を語る」を主催 (10月)
 - 11) UCLA にて、Yanai Initiative との共催にて “2 Days of Noh” として、竹本幹夫教授 (本学文学学術院) による講演会、能面師によるワークショップ、英語能公演を含むイベントを開催 (10月)
 - 12) 本学にて、ジェイ・ルービン名誉教授 (ハーバード大学) と翻訳家である柴田元幸名誉教授 (東京大学) との対談イベント “Putting Together a New Anthology: Book Launch Event for the Penguin Book of Japanese Short Stories ~Penguin Book of Japanese Short Stories” を主催 (10月)
 - 13) 本学にて、訪問教員の多和田葉子氏とジャズピアニスト高瀬アキ氏によるパフォーマンス&ワークショップ 2018 を共催 (11月)
 - 14) 本学にて、早稲田大学におけるバーミンガム大学デーの一環として日・英国際シンポジウム「現代のシェイクスピアの翻案と上演をめぐる (Adapting Shakespeare for the Stage Today) 」を共催 (11月)
 - 15) 本学にて、ティファニー・スターン教授 (バーミンガム大学) による講演会 “Tragedy and Performance in the Time of Shakespeare” を共催 (11月)
 - 16) 本学にて、訪問教員であるディヴィッド・ルーリー准教授 (コロンビア大学) をコメンテーターとする国際シンポジウム「古代史料に見る歴史と文学」を主催 (1月)
 - 17) 本学にて、「フランク・ホーレー研究の基盤と展望 -遺品資料活用の未来像-」を主催 (1月)
 - 18) UCLA にて、Yanai Initiative との共催にて “The Art of the Benshi” が開催 (3月)
 - 19) UCLA にて、UCLA-早稲田 国際シンポジウム “The Women in the Story: Female Protagonists in Japanese Narratives” 「物語の中の女性-日本のナラティブにおける女性主人公とは」が開催 (3月)
6. 国際共同研究の成果
- 1) 2018 年 3 月に実施した「不可能への挑戦 形のないアートを保存する -博物館におけるパフォーマンスアートとメディアアートのアーカイブと展示を巡って-」について報告書を公開した。(3月)

2. 2019 年度計画

(1) 入試関連 (Waseda Vision 150 核心戦略 1 関連)

－ 2020 年度を見据えた各学部・研究科における入試制度改革の実施計画 －

1. 入試広報の展開状況

1) 前年度に続き、3つの媒体（対面、紙、WEB）の連携を意識した広報を展開していく。

特に、学部パンフレットについては「ワセ文」をキーワードとして、文化構想学部と文学部、また学びの場となる戸山キャンパスを受験生に強く印象づけるべく、コンテンツ、デザインともに新しい試みを展開する予定である。

また、オープンキャンパスについても戸山キャンパスでの実施3年目となり、運営の安定とともに課題も明確になってきていることから、よりブラッシュアップした内容での実施を予定している。

2. その他

1) 2021 年度からの大学入試センター試験利用入試（センターのみ方式）および帰国生入試の廃止を決定済みあり、それに伴う定員の見直し等を検討する予定。

(2) 教育関連 (Waseda Vision 150 核心戦略 2、3、4 関連)

－ グローバルリーダー育成にむけた、各学術院・学院・学校における取り組み計画 －

1. 教員採用に関する取り組み

1) コロンビア大学教授 2 名を訪問教授として継続嘱任

2) UCLA 教授 1 名を JA による教授（任期付）として嘱任

3) UCLA 准教授 1 名を JA による准教授（任期付）とする協定の締結を交渉

4) コロンビア大学准教授 1 名を JA による任期付准教授として嘱任

5) 世界的に著名な作家 1 名を訪問教員嘱任予定

6) 人事要望の可否判断の際に、文学学術院全体で女性教員の比率を 3 割とすることを考慮

2. 学部・大学院のカリキュラム改革

1) 大学院文学研究科「国際日本学コース」（Global-J）修士課程開設準備

2) 2021 年度からの学部語学改革に向けた英語オンデマンド授業開発

3) 文化構想学部・文学部副専攻に関わる証明書の発行開始

4) 2020 年度からの初年次教育の改革検討

3. 持ちコマ数削減に向けた取り組み

1) 専任教員の持ちコマ数削減に向け、2020 年度から、学科目配当アンケートに先立って、講義科目の隔年開講等の可能性を専任教員に検討・導入してもらう予定

2) いくつかの講義科目を隔年開講にできれば、持ちコマ数の削減とともに、教室配当にも余裕が生じるものと思われる。

(3) 研究関連 (Waseda Vision 150 核心戦略 7、9 関連)

－ 研究の国際展開のための戦略策定に向けた取り組み計画 －

注) SGU「国際日本学拠点」、「柳井正イニシアティブ・グローバル・ヒューマニティーズ・プロジェクト」での活動についての記述は主に「国際分野」に記すこととする。

1. 研究推進・支援体制

1) 国際交流の多角化

・従来培われてきた米国の諸機関との強固な連携に加えて、東アジアやヨーロッパなどの諸地域との関係を一層強化することで、交流の多角化を図ろうとするものである。

・人文研に「拡大するムスリム社会との共生：歴史的背景とグローバル化」研究部門が加わり、活動を展開することで、多角化を推進する。

2) 国際配信の強化

・「5. 研究成果（英文）発信の取り組み」参照。

2. 科研費獲得の促進

1) 若手研究者を対象とした『日本学術振興会特別研究員（DC）』応募チャレンジセミナーを引き続き実施する。

2) 本学術院以外の主催による科研費獲得セミナーの情報共有を強化する

3. 研究関連シンポジウム、フォーラム等の開催

1) 研究部門主催・共催の研究会・シンポジウムを開催する。

2) 人文研年次フォーラムを開催する。（12月・予定）

3) 東アジア人文学フォーラム（10月、漢陽大学校・予定）での研究成果発表および共同研究の推進

4) その他、国際シンポジウム・ワークショップなどを積極的に実施する。

4. 研究領域を越えた研究連携の促進

1) 新任教員による研究内容自己紹介を中心としてランチセミナーの開催を継続する。

2) データ科学総合研究教育センターの協力・支援による、データを活用した文理融合による研究の促進

3) 人文学の領域を乗り越えたプロジェクト研究の推進

4) 人文研の部門の構成研究所員を中心としたオムニバス授業（人文研総合講座）開講の可能性を模索する。

5. 研究成果（英文）発信の取り組み

1) 2018年度、新規に実施した英語論文執筆セミナーを引き続き実施する。

2) 国際シンポジウムなどの研究成果を英語論文文化し、「Waseda RILAS JOURNAL」に掲載することで、同誌上における英語論文数の増加をめざす。

6. 若手研究者の支援

1) 若手研究者の人文研の助教、助手、研究部門の招聘研究員などへの受け入れを継続する。

2) 人文研における「助教・助手研究支援制度」を継続して推進する。

3) キャリア初期研究者支援サイトの充実

(4) 国際関連（Waseda Vision 150 核心戦略8 関連）

－ 派遣留学、留学受入促進に向けた環境整備への取り組み計画等 －

1. 学生交流

1) 日本語要件を課さない交換留学生受け入れ開始

2) UCLA-Waseda リサーチ・フェローシップ・プログラムによる大学院生の派遣

3) Waseda-UCLA リサーチ・フェローシップ・プログラムによる大学院生の受入

4) Waseda-UCLA トラベル・アワード・プログラムによる大学院生の受入

- 5) コロンビア大学とのダブルディグリー・プログラムによる大学院生の派遣
 - 6) コロンビア大学とのダブルディグリー・プログラムによる大学院生の受入
 - 7) 文化構想学部の英語学位プログラム(JCulP)のJS 学生を必修科目(Summer Session)により短期留学派遣
2. 研究関連国際イベントの開催
 - 1) 連携校／本学において国際シンポジウム、国際ワークショップを開催
3. 国際共同研究
 - 1) UCLA-Waseda ビジティング・プロフェッサーシップ・プログラムによる研究者の派遣
4. 連携の模索
 - 1) バーミンガム大学と連携した学術活動を実施
 - 2) スタンフォード大学との連携強化に向けて協議を継続
 - 3) ヨーロッパとの協力体制の構築・強化を目指し、イナルコ、パリ・テイト大学との協議を継続

以上